

## 自閉症児の特性に応じた指導方法の工夫

### 1 はじめに

自閉症の障害特性を持つ児童生徒は知的障害養護学校の在籍児童生徒の半数近くを占めるにもかかわらず、知的障害とは異なる自閉症の障害特性に応じた指導は十分とは言えない。自閉症の障害特性に応じた指導内容・方法が必要である。

### 2 自閉症の理解

#### (1) 発達障害

- ・ 発育環境や心理的原因で生じる障害ではない。
- ・ 「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの」(発達支援法 第2条定義)

#### (2) 自閉症のしくみ

自閉症の障害のしくみを理解し、対応した支援方策が必要。個別性の理解が不可欠。

##### ア 基本的な障害(「三つ組」)

- 対人関係の相互干渉の質的な障害(社会性の問題)
- コミュニケーションの質的な障害(コミュニケーションの問題)
- 興味の限局・同一性保持(想像力の問題)

##### イ 関連する症状

一次的な障害ではないが自閉症に付随して現れやすい症状

感覚情報処理の問題 視覚・聴覚・触覚・嗅覚・身体感覚などの過敏あるいは鈍感

注意の転導性と多動 注意持続の困難と多動傾向

情動の不安定さ 癇癢、パニック、興奮、緊張過多、気分易変性、易怒性、

攻撃性亢進、自傷

##### ウ 合併する精神症状

特に学童期・青年期以降、不適応や被害体験の結果見られることがあるうつ状態等の症状

##### エ 二次的障害

周囲の状況が理解できない等本人側の要因と、不適切な対応等の環境的な要因により、自傷、他害、強いこだわり、激しいパニック、奇声、睡眠の乱れ等の行動障害が現れ、悪循環に陥りやすい。

#### (3) 自閉症の障害の特性

自閉症者の自伝等により、自閉症の障害の特性を具体的に理解し、対応を考える。

##### ア 情報の取り込み、統合、意味理解、処理が難しい。

##### イ 話し言葉、視線、身振り等によるコミュニケーションがとりにくく、その場の状況判断や場面の意味が理解しにくい。

##### ウ 意味のある大切なところに注意を向けにくく、細部にこだわり全体が見えにくい。そのため、他の人と意味や感情を共有することが難しい。

##### エ 社会的・対人的な関わりを適切に続けることが認知の力とは不相応に難しい。

##### オ 見る、聞く、触る、嗅ぐなどの感覚・知覚に違いがある。

### 3 自閉症への支援

#### (1) 子どもの実態把握

##### ア 正確で緩やかな子ども理解が大切

発達検査、社会的スキル、生活の力、人との関わり、家庭や学校でのエピソード

##### イ タイプごとに異なる特性と困難

知的発達に伴う特徴と支援(表象・認知、操作・移動、情動、社会性)

年齢にともなう特徴と支援(多動、思春期心性、マイナス体験の負荷)

付随的特徴と支援(パニック、衝動性、多動・注意転導、知覚過敏、気分障害等)

#### (2) 教育課程

- ア 教育課程の土台
  - クラスの性格、在り方（集団編成）
  - 学校生活の組み立て（日課、週時程）
  - 児童生徒にとって意味ある活動、見通しが持ちやすい活動
- イ 教育方法の共通理解
  - ライフステージごとの課題の明確化
  - 就学前期、適応拡大期、思春期、青年前期それぞれにおける課題を、知的発達の水準や節目を参考に明確にする。
  - 「わかる」社会性を育てる、人を意識する、物に向かうを大切に。

### (3) クラス経営

- ア 教育と生活の場を作る。
  - 場を移動して活動を組み立てる。
  - 生活場面と活動との関係の理解、一目見たら分かるめあてと小道具等）
  - ものを介して
  - 具体的なものを介した共有、分かったものを共有、自分の気持ちを物（例えばいす）に託して
  - 「横並び」の関係も大切に
  - 距離、向き合う関係のしんどさ、緩やかな人間関係
- イ 生活の流れを作る。
  - 視覚的、具体的に、関連付けて
  - 活動を入れて場面を切り替える。
  - 子どものペースを大切にすることと指導者の側の主体性
  - 受容では育たない、待っていては育たない。
- ウ 子どもの「自分」を意識させる。
  - 「自分の場」、自分のいす、自分のリュック、自分の道具袋
  - 活動のまとめ上げ（こぼしたら拭く。使ったら片付ける。）
  - 「自分」の自由度を高める。（生理的基盤、身辺自立、基本的な生活習慣）
- エ 必要な「人」 受容・共感ではなく具体的であること
  - 分かりやすい指示を出す人
  - できたことやしてはいけないことを明確に示す人
  - つまづきを整理分析し手立てを講じてくれる人
  - 発信したサインや要求を返してくれる人
  - 子どもにとって心の乱れない人

### (4) 授業づくり

- ア 「移行」の視点
  - ライフステージの環境や課題
- イ 指導計画の分析的視点（同じ教材でも異なるねらい、個別に対応したアプローチ、集団の質と大きさ、自閉症の障害特性と認知システム）
- ウ 分かりやすく納得できる評価（一人一人に合わせ一人一人を評価、子ども自身が評価を実感できる、現在と将来の環境への移行）

### (5) 高機能自閉症等

- ア 高機能自閉症とADHD
  - 「困難さ」の性質の異なるハンディキャップを正しく見分けることが必要。
- イ ADHD等と広汎性発達障害を併せ持つ場合の対応
  - 自閉症の支援が基本

### (6) まとめ

- ア 学ぶ、自分達で創り出す。
- イ 目の前の子どもから出発する。
- ウ 発達を学ぶ、障害を学ぶ。
- エ ライフサイクル、ライフステージを意識する。
- オ 有効でない努力よりも正確な事実認識を。